



ぼうさい
こくたい
2019
@NAGOYA

大規模災害に備える - まなぶ、つながる、つよくなる -

防災を、もっと日常に



DRONE PILOT AGENCY

中部防災国体に行ってきました

先月19日、20日の両日に渡って行われた、「ぼうさいこくたい」に行ってきました。同月の前週に関東に大きな被害をもたらした台風19号の猛威は記憶に新しいことでしょう。近年、多発するようになった災害に対して2016年より毎年実施されている、国内最大級の防災イベントです。

当社も台風19号の後には、インフラ関係の事業者様より依頼をいただき災害後の対応を行ったばかりでした。そして、ドローンと画像分析は災害後も防災に対しても有効だと考えていたところ、当イベントでもドローンを活用した展示がありました。数点ではありますが、ご紹介します。



ドローンに関する展示は3つ。一つ目が一般社団法人ドローンコンソーシアムによる展示、二つ目が特定非営利活動法人RCレスキューベンジャミン隊による展示です。三つ目は防災・災害というよりも農業での紹介でしたが、一般社団法人DroneAI技術研究機構の展示でした。



農業紹介の展示以外は、どちらも内容は似ており災害発生時に、ドローンを活用して現地の状況を把握する、救助に活用する、というものです。実際に災害時に対応した事例、ボランティア団体の紹介などをしていました。一つ目と二つ目の団体で異なっているのが展示してあるドローンです。



ドローンコンソーシアムは、ドローン企業でいち早く上場を果たした国内ドローンメーカーACSL（自律制御システム研究所）のドローン展示です。地形測量専用機として紹介し、災害時の地形の状態を計測、記録できます。迅速に現地の状況を把握し、インフラ復旧などに活かすことを前提としているのでしょう。楽天での配達にも使われていたので、自動プログラミング飛行を前提とした運用でした。



レスキューベンジャミン隊は、名古屋のドローンメーカー、プロドローンの機体を展示。小型ドローンのスパークも展示しており、ボランティア活動の実績紹介が主でした。

このドローンは最大積載量が30キロ、価格もかなり高いドローンです。物資の輸送を念頭においた展示で、道路インフラが寸断された場合や、緊急性の高い薬などの医療品を輸送するのに向いています。

ぼうさいこくたい2019に
展示されたドローン活用は、主
に災害発生時の対応が見受けら
れました。

実は当社も10月の台風19号の
後には、台風で寸断された道路
インフラの影響を受けずに、生
活インフラの現場状況をいち早
く把握するツールとしてご依頼
を受け、ドローンにて緊急対応
を行いました。



現場のオペレーションも大事ですが、年々大きくなる災害に対し、すぐに対応できる保守体制、ドローンパイロットの確保を速やかに行うことの重要性を何より痛感しました。

画像解析技術と最大数のパイロット、二つの強みを更に強化し、有事の際には復旧や救助に尽力できるように努めて参ります。

